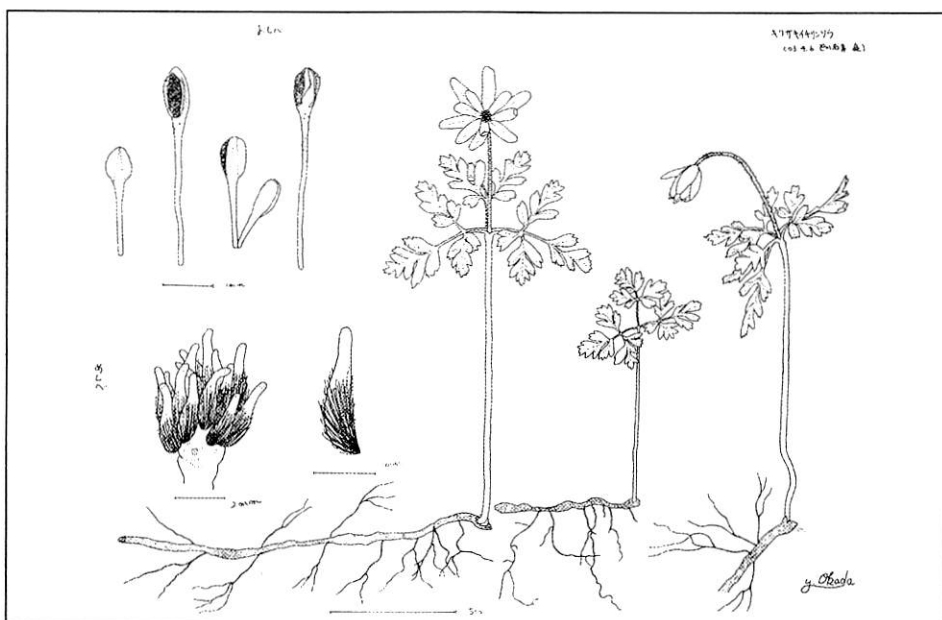


協議会ニュース 127号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2010.3



イラスト：キクザキイチリンソウ（岡田慶範／西三河支部）

総会・講演会案内P2
支部総会報告 尾張支部	齋竹善行P3
” 奥三河支部	小山舜二P3
研修会報告 東三河支部	天野保幸P4
” 奥三河支部	小山舜二P5
協議会の日行事報告	星野芳彦P6
新入会員紹介P8
会員のページ	
平針里山の自然と保全について 山口 健P12
理事会記録 第3回P13
” 第4回P14
事務局だよりP15
行事・編集部P16

＝平成 22 年度通常総会 & 講演会＝

愛知県自然観察指導員連絡協議会の通常総会を次のとおり開催します。

年に一度、会員が一堂に集う会です。日頃なかなか出会えない会員と会うことができるこの機会に、是非ご参加ください。

日時 平成 22 年 3 月 22 日（月・振替休日）

場所 愛知県勤労会館（電話 052-733-1141）

住所：名古屋市昭和区鶴舞一丁目 2 番 32 号（下記地図参照）

交通：JR 中央線「鶴舞駅」下車、公園口から南へ徒歩 5 分

地下鉄鶴舞線「鶴舞駅」下車、5 番出口から南へ徒歩 5 分

市バス「東郊通一丁目」下車、東へ徒歩 3 分

■総会当日は ①同封の総会資料 ②名札 ③マイカップをご持参下さい。

10：00 理事会

12：30 受付開始

13：00 H22 年度通常総会開会宣言

1)総会参加者数の報告

2)H21 年度の協議会各理事紹介

3)会長挨拶

4)総会議長、書記の選出

5)総会議事

①第 1 号議案 H21 年度事業報告

②第 2 号議案 H21 年度決算報告

及び監査報告

③第 3 号議案 新役員承認

④第 4 号議案 H22 年度事業計画(案)

⑤第 5 号議案 H22 年度予算(案)

⑥要望事項・質疑応答

14：30 総会終了宣言

～～ 休憩 ～～

14：50 講演会

「愛知県の哺乳類－その生物多様性と特定鳥獣保護管理計画について」（仮題）

愛知学院大学講師 子安和弘氏

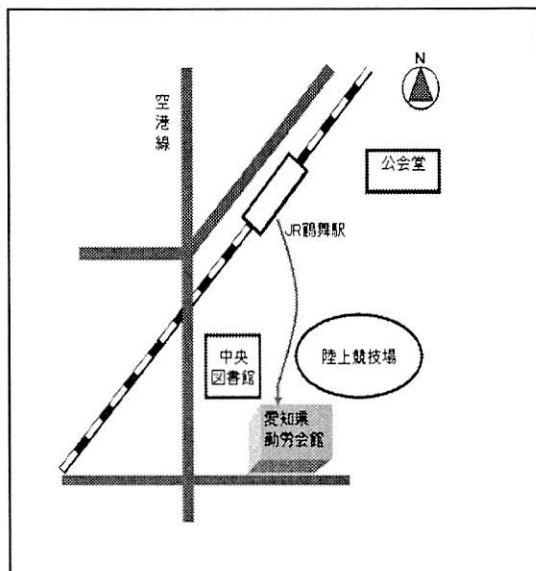
16：20 茶話会（講演の質疑応答含む）

16：50 閉会・後片付け

17：00 会場撤収

17：30 頃～ 希望者にて懇親会

会場及び会費：未定



子安和弘氏の紹介

所属：愛知学院大学歯学部解剖学第二講座

研究テーマ：哺乳類咀嚼器官の形態・発生・進化

著書：「フィールドガイド 足跡図鑑」

趣味：アニマルトラッキング

尾張支部総会

尾張支部 齋竹善行

平成 22 年度総会は、1 月 11 日午後、名古屋市東区の東桜会館で 21 名が参加して開かれました。

大谷副会長を議長に選出し、樋口会長の挨拶に続き用意された議案（事業報告、決算・監査報告、役員選任、事業計画、予算）審議を行いました。事業報告では各担当から定例観察会などの具体的な取組みが紹介されました。役員選任は事前に運営委員会での調整もありスムーズに進み、協議会の新理事候補 5 名も決めることができました。新役員は次のとおりです。

会長：齋竹善行、副会長：大谷敏和、会計：山口昌宏、
事務局：吉田雅則、監事：上等トシ、通信編集：内海勇夫、
通信発送：小嶋護、ホームページ：山田博一、顧問：樋口祐子

事業計画・予算に関する最大の懸案は会費問題で、1200 円会費では赤字が見込まれることから値上げをするかどうかでしたが、支出額の大きい「尾張自然観察会通信」の郵送を隔月（偶数月）にすることにより、当面は現行会費を継続してみることにしました。通信は毎月作成し、ホームページに掲載するとともに毎月メール配信も行うので、できるだけ郵送からメール配信に切り替えてもらうよう、メールが利用できる会員の実態を調べることとしました。また、従来の定例観察会で一部日程や開催場所を変更したほか、会員相互の交流を図るため 11 月 28 日（日）に「尾張自然観察会のつどい」を開催し、また、「あいちの観察会」や名古屋支部との合同研修会、一泊研修などへの積極的な参加を呼びかけていくことにしました。

奥三河支部総会

奥三河支部 小山舜二

日 時：平成 22 年 1 月 24 日（日） 場 所：新城観光ホテル 参加人数：15 名

総会では 21 年度事業報告、会計報告に続き、本年度事業計画などの議題を審議しました。特に支部観察会は 20 年度から実施しているシリーズもので、会員それぞれが得意分野に取り組み、指導員の育成、レベルアップにかなりの成果がありました。これらの成果を踏まえ、本年も COP10 開催にちなんで「四谷の千枚田」を舞台に 2 回シリーズで支部観察会を行うことに決まりました。

I 役 員 会長 小山舜二、副会長 村上和彦、庶務会計 山田由乃

II 平成 22 年度事業計画

1、あいちの自然観察

テーマ 寒狭川で自然探検（名古屋環境大学共育講座） 日 時 平成 22 年 6 月 27 日（日） 10:30～15:00

場 所 寒狭川鮎滝付近 集 合 10 時に県立新城運動公園 担 当 小山舜二

2、支部観察会

第 1 回 テーマ 夏の四谷千枚田を観察しよう 日 時 平成 22 年 8 月 29 日 9:30～11:30

場 所 四谷千枚田 集合同所 連谷小学校駐車場 担 当 小 椋

第 2 回 テーマ 秋の四谷千枚田を観察しよう 日 時 平成 22 年 11 月 14 日 9:30～11:30

場 所 四谷千枚田 集合同所 連谷小学校駐車場 担 当 森 田

3、支部研修会

日 時 平成 22 年 5 月 15 日（土） 10:00～15:00

場 所 茶臼山高原 あてびの森周辺 10:00～15:00 ※ 集合同所の詳細は後日決定

懇親会

総会も無事終了。会員である新城観光ホテルの佐藤社長さんのご好意でシシ鍋を囲んだ懇親会は、奥三河支部ならではの豪華、贅沢そのものでありました。他支部の皆さんも、自然豊富で総会では野生動物（しし鍋、エゾシカ、カモ鍋など）も食べられる奥三河支部会員になりませんか。

磯の生き物観察

日時 平成21年9月5日(土)

東三河支部 天野保幸

場所 御前崎 月齢=15.7 干潮時刻=11:47

昨年の9月、東三河支部の会員研修会が静岡県の御前崎海岸で行われましたので、その時の様子を報告いたします。

参加者：浅井・柴田・原田文男・林
鈴木千夜子・高林夫妻・天野
現地参加：大久保夫妻(尾張支部)
敬称略

9時に豊橋市岩屋緑地公園に集合し2台の車に分乗して現地に向かう。約2時間で到着し、現地にて尾張支部の大久保さん夫妻と合流する。潮の関係で昼食前に磯に下り観察を開始する。当日の潮の引き方は大変少なく、生物が一番多く観察できる場所まで行くことができなかった。春の潮は昼間に大きく引き、秋の潮は夜に大きく引くことがはっきり表れていた。

(春の干潮時には-120cm位になる)

特に今回は台風の影響が出ていたためか潮の引き方が大変少ないように感じた。

採集された生物 { () 内は目撃のみ }

魚類：ドロメ・シマハゼ・カエルウオ・
シマスズメダイ・オヤビッチャ
ギンユゴイ
(ナベカ・イソギンポ)

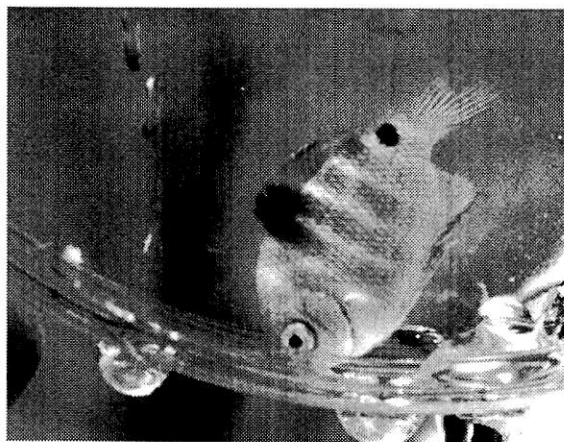
その他：イソスジエビ・クロナマコ
ケアシホンヤドカリ

イソヨコバサミ・イワガニ
オウギガミ類・スガイ
イシダミガイ

海藻類：ヒラミル・サンゴモ類
(トゲトサカ・マクサ)

海草類：エビアマモ
などが採集されたり観察されたりした。

今回は潮については台風の影響や時期の関係から磯の先端部まで行くことができなかった。そのために観察できた生物種も非常に少なかった。ただし、稚魚類は多く見られた。それは、夏に産卵孵化した稚魚たちが少し大きく育ち磯に現れるからである。特に秋の初めは水温も高く熱帯性の魚の稚魚が見られることがある。このような稚魚は冬の低水温に耐えられず死滅するため、死滅回遊魚と呼ばれている。



シマスズメダイの幼魚

秋の弁当山公園

奥三河支部 小山舜二

日 時 平成 21 年 11 月 15 日

場 所 長野県阿南町西条

参加者 10 名(一般参加者 2 名)

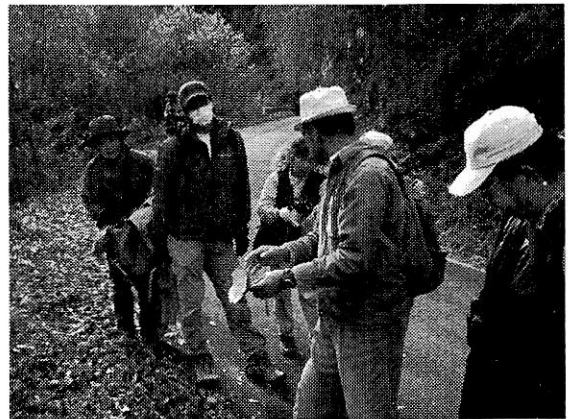
阿南町のスーパーを集合場所に集まった参加者は下条村を地元とする村上指導員から本日の行程の説明を受け、それぞれの車で「弁当山入り口」のカンバンに沿って出発。5分程度で簡易水道施設「田上配水池」に到着。ここから徒歩で各自昼食の弁当を背負い「弁当山」めがけて出発。途中、キノコ採りの村人に「熊に気を付けよう…」と声をかけられる。

林道(作業道)周辺の林層をみると肥沃地はスギ、ヒノキの人工林、石がら山や尾根は広葉樹林で形成されているが、既に落葉の季に達していた。

道中：塩味のするヌルデ、クリタケやコガネタケのキノコ類、ハゼノキなど、指導員の得意分野を活かした観察をしながら標高 980mの公園風の山頂に辿り着き、立派な展望台に登る。左方には天竜川や、飯田の町並みが幻想のように浮かび、また遠く南アルプス、中央アルプスなど 180 度の眺望が素晴らしく、皆、展望案内板と見比べ「あの山、この山」と話題しきりであった。近くの草むらに三等三角点もあり征服感も満たされた。

昼食タイム：弁当山の山頂で弁当を食べ、村上指導員から「弁当山」の由来「昔むかし大男が弁当のおにぎりを落とし、転がって止まったところに大きな穴ぼっちがあき、そこに水が溜まって深見池ができたそうだな…」など、楽しい噂が聞かれた。

下山：村上指導員(熊やイノシシを追う猟師)の先導で広葉樹林の尾根を落ち葉のじゅうたんが敷き詰められ、獣道すら判らない急勾配の斜面を、ヒャアヒャア、ワァワァ言いながら滑ったり転んだり、挙げ句は枯れ木にしがみついたりしてやっと下



山。駐車場付近で完熟したマタタビやケンポナシの実などに会い、ひととき童心に返った楽しい研修であった。

葦毛湿原早朝“感”察会 を終えて

～冬枯れの湿原でたくさんの宝物をみつけました！～

東三河支部 星野 芳彦

昨年のもので鬼に笑われそうですが、当支部で私の班が担当した地域観察会の実施報告をさせていただきます。この観察会は「協議会の日」の行事として実施したものです。

11月29日(日)、2009年度最後の地域観察会を葦毛湿原で実施しました。思い起こせば2006年10月、中秋の名月当日に「ムーンライト観察会」を実施して以来です。せっかくの機会なので普段とは少し趣の違ったものを目指したつもりです。

今回の観察テーマは「冬枯れの湿原に宝物をさがそう」でした。早朝観察会を企画したのも冬ならではの自然の姿を観察するためです。

暮れからの寒波襲来前、「今年は暖冬」との予測通り、当日の朝は気温6℃程度でそれほどの冷え込みはありませんでした。氷や霜はもちろん、今回の目玉のひとつだった湿原入口の長尾池の朝霧も残念ながら観察できませんでした。湿原の脇を流れる沢の水温が10℃弱でしたから無理ありません。この実施報告がお手元に届くころ少し早起きをして葦毛を訪ねてみて下さい。豊橋市内であることを忘れてしまいそうな幻想的な光景を目の当たりにできるはずですよ。

今回の主なポイントは①気象観測、葦毛湿原の秘密、②弓張の台風18号被害、③雑木林のカラ混群、④冬枯れの湿原の植物を設定しました。参加者全員で移動しながら『宝物』を発見したらその都度解説を加えるといった流れでした。

集団が長くなり、まとまりがなくなるかもしれないという心配がありましたが、間瀬さんに用意していただいた湿原植物の絵入りお手製立札は効果絶大。少人数の班編成ができないとき、あらかじめ立札があると本当に便利であることを痛感しました。インタープリターが直に話しかけることの大切さは勿論ですが、参加者自身で対象を確認することも必要ですね。

自分なりの『宝物』を見つけることを目的に葦毛の早朝を体感することを目指したわけですが、こちらの予想以上に参加者のみなさんはいろいろと感じたようです。

以下は観察会の終りにお願いしたアンケート結果です。

今朝、あなたがみつけた『葦毛のたからもの』を教えてください。

- ・ミミカキグサ(大人男性) ・クロウメモドキをはじめて見た。また、違う季節に来たいと思いました。(大人女性) ・ワレモコウの現物をはじめて見た。(大人男性) ・ヤママユ(大人男性) ・冬の葦毛にもミミカキグサのようなかわいい花が咲いていた。(大人男性)
- ・タチシオデの実(大人女性) ・クロウメモドキの実のついた状態を初めて見た。(大人女性)
- ・葦毛の自然のボリュームの大きさ(大人男性)

今日の感想やわたしたちへのメッセージをおねがいいたします。

- ・とても楽しく時間を過ごせました。小さなものにも目を配ることができました。(大人男性)
- ・いろいろな面からの説明(地質・歴史など)がよかった。(大人女性) ・さまざまな企画と



わかりやすい説明に感謝します。(大人男性) ・また参加したい。(大人男性)
 ・この時期(初冬)の葦毛をはじめて見た。(大人女性) ・いつもいろいろと新しい発見がある。(大人女性) ・シラタマホシクサを茎に沿ってなで上ると花ガラが右回りに回ることがわかった。(大人)

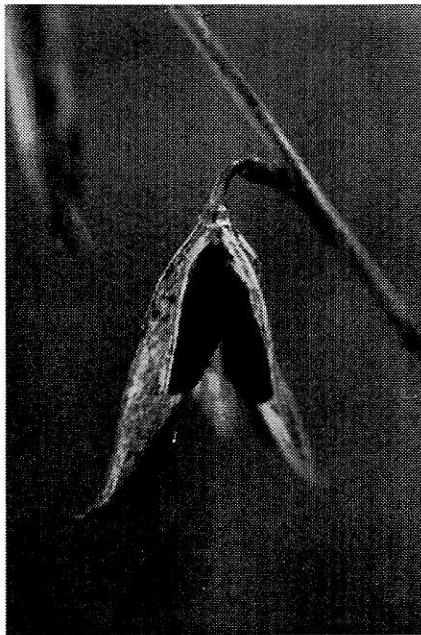
当観察会への会場や内容のリクエスト

・川や海岸での観察会を多くしてほしい。(大人男性)

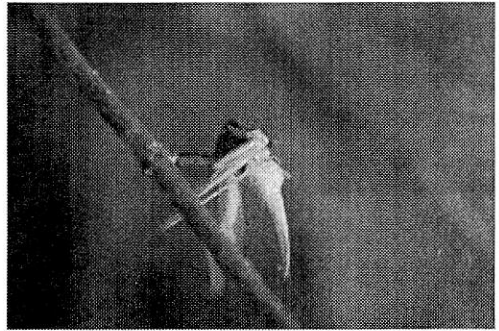
私(星野芳)が見つけた宝物をご紹介します。

まず、湿原の木道近くの小枝に刺さったモズのはやにえです(右)。バッタの仲間でしょうか。

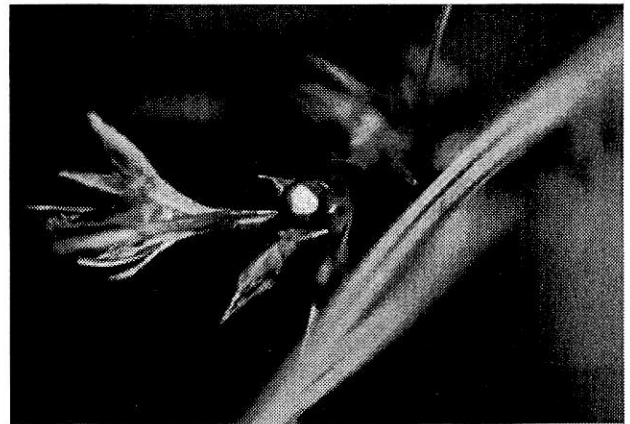
この習性は、冬越しのための餌の貯蔵など諸説ありますが本当の意味はよくわかっていません。



次は、ミズギボウシの実です。初



めて見ました。陽に透かしてみると実にきれいです。左の写真は下見のときに撮影したのですが、当日は見つかりませんでした。



最後はミカワシソジュガヤの実です(右側写真)。名前の通り小さな真珠を思わせますね。

冬の湿原には、色とりどりの花に満ちた他の季節と違って、一見何も魅力的なものが無いように思いますが、感覚を研ぎ澄ますと実にたくさんのがみつかります。

思い起こせば、財賀寺でのムササビ、朝倉川でのホタル・コウモリ、葦毛湿原での月夜の観察会と少し変化球をと今回早朝の観察会を企画してみたわけですが、確かに普段とは一味違うものができたと思います。今後も五感を大切に、参加者のみなさんと自然のすばらしさが共有できるような観察会を目指したいと思います。

なお参加者は一般の方30名、当支部会員25名、県協議会の他支部から9名でした。恒例の芋煮会も他支部のみなさんをはじめ25名ほどの参加があり、大盛況でした。

下見をはじめ、企画・運営にあたり多くの方にご協力をいただきました。葦毛のたから探しをしてみて、自分にとって参加者や協力者のみなさんが一番のたからものだったことがよくわかりました。本当にありがとうございました。

新 会 員 の 紹 介

昨年、指導員講習会を受講され、当協議会に加入された新会員の方は昨年12月発行の「協議会ニュースNo.126」でお名前と所属支部を紹介いたしました。このたび、協議会ニュースに自然観察指導員を志した理由、これからやってみたいこと、関心のある自然分野、協議会への要望・意見などを含めた自己紹介の掲載をお願いしたところ、18名の方から原稿を提出していただきましたので、ご紹介します。なお、名古屋支部の方の多くは、支部で実施されたアンケート調査を使わせていただきました。その場合、①はふりがな、②は自然観察指導員になったきっかけ、③はこれまで自然などから得た最大の学び、④はこれからやってみたいこと、伝えたいことです。

【 名 古 屋 支 部 】

加藤邦彦さん（名古屋市西区）

①かとう くにひこ ②自然観察指導員の紹介 ④障害者を自然観察に参加させたい。

坂野静雄さん（名古屋市名東区）

①さかの しずお ②なごや東山の森づくりの会で活動していますが、より一層、自然を知りたいと思った。③小さな草花でも最大限の生き方をしていること。④一層努力して多くの人達に自然の必要性とすばらしさを伝えたい。

佐藤裕美子さん（名古屋市東区）

①さとう ゆみこ ②生まれ育ったのは名古屋の中心部でしたが、子供の頃より生き物（特に昆虫）が好きでした。以前住んでいた伊那谷では、いろいろな活動に参加してきました。自然保護協会の会員暦は30年、ずっと指導員として活動する事に興味を持っていましたが、自分の時間が持てるようになりましてので、何かお役に立てればと思い、講習会に参加しました。③転勤でいろいろな所に居住しましたが、どこもさまざまな環境問題を抱えており、それらの現場を見てきました。その土地の歴史や文化や風俗なども自然と結びついており、人の営みも自然の一部なのだと思います。私達は自然の恵みに生かされていると感じています。人が自然の微妙なバランスを崩さないように、そのツケを次の世代に回さないように努力しなければと思います。④子供たちにもっと外に出て自然を感じて欲しい。小さな生き物と親しくなって欲しい。子供たちの「何だろう？」という素朴な疑問をお母さんたちは大切にしていあげて欲しい。新しい発見は誰にとってもうれしいものです。一緒になって小さな喜びを分かち合えたらと思っています。

新山雅一さん（名古屋市守山区）

新しく加入させて頂きました新山（シンヤマ）と申します。宜しく願い致します。自然観察指導員になった理由は、大学を卒業し2年間仕事と趣味の野球に明けくれています。6年前に会社の野球部が廃部になり、2年間ほど子供が加入するソフトボールの監督をやり、やめてから最近ゴルフを始めました。そんな中で、何か物足りないというか、自分をみつめ直して生きがいを見つけたいと思ひまして、ありとあらゆる資格に挑戦していたところ、自然観察指導員もその一貫として挑戦しました。自然観察会は、末っ子の長男と何回か参加したことがあって興味があり、自然が少ない名古屋で、自然と向き合ういい機会と有意義であると同時に、幼い頃の自分を思い出していました。指導員講習会で、今井信吾さんの説明に賛同というか感動し、少し迷いましたが、将来の特に子供達に役に立ちたいというか自然の大切さをわかってもらいたいということで、県の協議会に加入しました。

自然への知識は全くありませんが、昆虫に興味があるので、勉強して将来は、昆虫に関する自然

観察会を実施したいと思っています。1月24日開催しました庄内緑地公園のネイチャ・フィーリングに共鳴し加入したいと考えております。

風邪は何年間もひかずに健康です。但し花粉症ですが。性格は人見知りですが、慣れると冗談ばかりで笑わすのが大好きです。では、みなさんにお会いするのを楽しみにしていますので、宜しくお願い申し上げます。

野津原泉さん（名古屋市天白区）

①のつはら いずみ ②ネイチャ・フィーリングの活動を続けてきたが、より自分の活動の巾を広げたいと思ったから。 ③ネイチャ・フィーリングの中で、自然を通して自然の心地よさ、発見の喜びを参加者の方々と共有できたこと。

身近な自然、例えば道端の雑草からも一生懸命生きている命を感じられるようになった。④ネイチャ・フィーリングの継続、PR。子供たちに身近な自然にふれあう楽しさを伝えたい。

森美紀さん（名古屋市南区）

①もり みき ②環境大学の自然講座を受講した際に、身近な自然にとっても感動したので。何かお手伝いできればと思い参加しました。 ③名古屋の自然について聞いた事はあっても、見て実際に触れて見ると、全く違っていてより素晴らしかった事です。 ④地域の自然に興味があります。まだ何も活動していませんが、こつこつと何かをやっていければと思っている。

山口美香さん（名古屋市港区）

①やまぐち みか ②知り合いの方が自然観察指導員でその活動を見て、興味を持ったので。 ③これまで嫌いであった虫も観察しているうちに、好きになった。 ④子供たちに楽しみながら自然を感じて欲しい。

【 尾 張 支 部 】

井村完二さん（春日井市）

自分が子供の頃に比べてだんだん自然が少なくなって、今限られた少ない自然を大切にとの思いで、昨年3月趣味の山歩きの仲間と皇居奉仕団に参加した際、天皇、皇后両陛下よりお山の自然をお守りくださいとのお言葉を直接頂き感動し、自然観察会に参加するきっかけにもなりました。自然は時には私達を驚かす姿を見せることもあり、又、心が疲れた時など癒されたり、元気をもらったり、いろいろな感動があります。一人でも多くの方に本当の自然を体験して頂き、又ここへ来てみようと思える自然いっぱい楽しい場所が増えることを願って仲間に入れて頂きました。今後共よろしくお願いします。

木村絢子さん（名古屋市守山区）

観察会に参加を始めて5年（緑地公園と森林公園）、月1回同じコースを歩くのに毎回新しい発見に驚く。こんなにもおもしろい観察会にいつも受身の参加では申し訳ない。私のできることで協力（あまりたよりにはなりそうもないが）と講習会を受講。これからどのような形でかわっていくのかわからないが、自然の不思議なしくみについて多くの人に知ってもらいたいと思う。また、観察会と同時に始めた植物画で観察会用のきれいなパンフレットのようなものを作りたいというのが今の夢。絵の上達がままならず、いつになることやらですが。

松山佳代子さん（東郷町）

〈志した理由〉自然のしくみの素晴らしさをもっと学びたいと思って

〈関心のある自然分野〉里、野山の草木を中心に鳥、昆虫、空

〈やってみいたいこと〉もっと身近な自然！ 自分の生活に関係有る、歩いていけるエリアを東郷町の皆と観察して回ること

〈協議会への要望〉たくさんPRをしていただいてより多くの人に自然の素晴らしさを知っていただきたい。

【 知 多 支 部 】

大矢美紀さん（名古屋市瑞穂区）

わたしは木曽川の堤防に近い、一宮で生まれ育ちました。子どものころは川原に基地をつくって友人と遊ぶのが一番の楽しみでした。「自然と親しむ」ことがわたしの体にしみついているようで、町中を離れ、自然のなかにいるとほんとうに癒されます。名古屋にいながら、知多自然観察会に所属しております。海が大好きです。陸や川に比較し、海には無限さがあります。観察をはじめて十年を過ぎようとしています、未だに知らない生き物が出現します。わたしは世間ではマニアックなおかしなおばさんと思われるようですが、自然観察指導員の方々とすると皆さんが同類なのでとても安心できます。今後ともよろしくご指導をお願いします。



加藤美幸さん（半田市）

子どもから手が離れ、これからは自分の好きなことをやろうと、講習を受けました。久々にタモを持って川に入った時は、郷愁の思いとともに、野生児の頃の血が湧き起こり、こんなに楽しいことを、ぜひ現代の子ども達にも経験させるべきだと実感しました。目を向ければ、鳥も魚も、木も花も身近に自然はたくさんあります。私自身が、楽しみながら学び、もっともっと地元のことを知りたいと思っています。

森田琢磨さん（常滑市）

リタイア後、放送大学教養学部で「自然と環境」を専攻し、卒論「海岸陸水境界生物の多様性と環境」への取り組みを通じて知多半島沿岸部の海岸生物について関心を深めました。また、現世代(完新世)は地球史上7度目の大量絶滅に直面しており、私たちはこの問題に何らかの方法で関与して行くことが求められている事を学びました。昨年3月大学卒業後、これまでの学歴や関心を踏まえて社会貢献活動の一環として自然観察指導員を志しました。既に「知多自然観察会」への活動参加を通じてCOP10等にも関与させて頂いていますが、今後とも知多半島および沿岸の生態系についてモニタリングと保全の役割の一翼を担っていきたいと思っています。



【 西 三 河 支 部 】

相良洋子さん（豊田市）

山登りをしていた時、歴史があり豊かな自然に囲まれていたであろうある場所が、訪れる人影も少なく荒れている様子を目にしました。このまま、なるがままになってしまうのだろうか、何かできないだろうかと思いました。しかし人それぞれに違った考えがあり、どう考えればよいのかわかりませんでした。自然の本来あるべき姿とは、保護するとは、観察方法等自然について学びたいと思いました。今、森を通して自然の素晴らしさに惹かれています。もっと自然のことを知り楽しみたいです。

自然の様子を注意深く観察して、多くの発見や感動の体験を分かち合いたいと思っています。知らないことばかりですがどうぞご指導よろしくおねがいいたします。

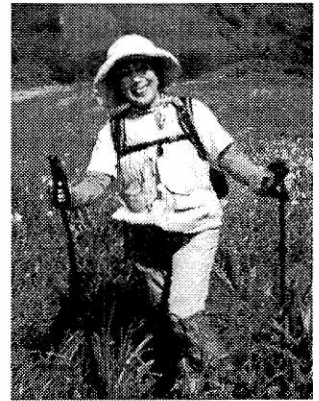
長野勝也さん（岡崎市）

自然が好きで、生物クラブ、山岳部、ワンダーフォーゲルと、年齢とともに移り、現在は里山ハイキング、湿地保護活動で汗を流しています。このたび自然観察指導員を受講し、「自然をもっと深く観察できる」五感を養い、できれば子供達とその良さを味わい、喜びとなる様に活動したいと考えて行動しようと思っていますので、よろしくお願いいたします。

【 東 三 河 支 部 】

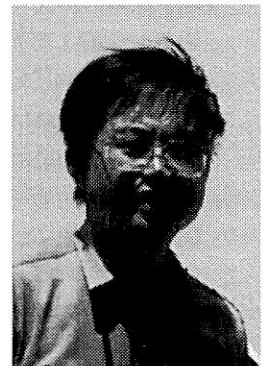
坂口幹子さん（豊橋市）

私は自然に親しむ事が大好き、若い頃より登山、スキー等に親しんできました。観察会も大好きで楽しみに参加しております。昨年 9 月から COP10 パートナースhip事業「穂の国エコカレッジ」を受講、改めて学ぶ事で新しい発見があることを痛感し、締切間際に自然観察指導員講習会に思い切って申込みした次第です。講習会では皆様と楽しく学びながら、「気付き」を共有して勉強する事の大切さ、今まで見えなかったものが見えてくる喜びを学ぶ事が出来ました。これからは身の丈に合ったやり方で自然の宝庫とも言える東三河の素晴らしさを紹介し、生物多様性の保全にも積極的に関わって行きたいと考えています。宜しくお願ひ致します。



野田賢司さん（名古屋市中区）

私が指導員を志した理由は、日頃西三河の山野川海を観察していますが、最近東三河の観察も入り、経験から得た学びの交通整理と地域奉仕を意図したからです。これからやってみたいことは、各観察会への参加、催事企画、資料制作、自然共生地域づくり支援です。関心のある自然分野は、気候、地形地質、植生・動物生態、水文水質、景観、光音、親水・触合いで、三河湾と集水域の環境要素、特に水循環と生態系が視点です。個別には哺乳類、鳥類、両生類、魚類、昆虫類、貝類、里山・汽水域・干潟生態系、河川・地下水、育種（動植物共生系）です。なお、協議会には、支部からの伝達事項・連絡網が不明で、Eメール配信や郵送もお願いしたいと思います。



森恵二さん（田原市）

渥美半島の自然や歴史にかかわって来ましたが、最近では里山保全に関心があります。人は昔から生活のため農業を主体に大切な大地（里山）を守ってきました。今では木を切る人がいなくて、腐葉土のにおいがうすれてきました。環境を取り戻せば必ず子どもは戻って来てくれるでしょう。仕事では公園や庭の手入れを行っておりますが、里山での植物、野鳥の見分け方はまだ不十分です。皆様のご指導をお願いいたします。

Eメール kei.mori.tahara.@smile.ocn.ne.jp

12月号（No.126）p2の新会員紹介の一部に誤りがありましたのでお詫びして訂正します。

青木一朗→青木一郎、古間木立也→古間木達也、森田拓磨→森田琢磨
新山雅一（名古屋支部に掲載漏れ）

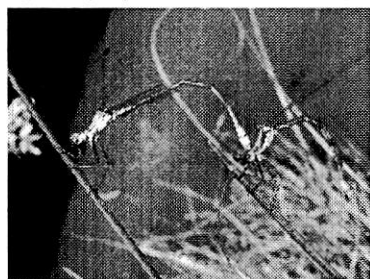
平針里山の自然と保全について

山口 健

平針の里山は平針運転試験場の西側に広がる約 10ha の緑地帯で、去年（平成 21 年）までは農地として水田や果樹園などが営まれ、雑木林や竹林、ため池などがセットになって人と自然が共生してきたまさに昔ながらの里山の原型を残す場所です。また里山の西側には島田湿地も隣接し、地質的には瀬戸層群矢田川累層（第三紀鮮新統）の南部に分布する砂礫層を主体とする猪高部層の礫に、粘土質の層が堆積しています。そのため、砂礫層特有の植物であるトウカイコモウセンゴケの、おそらく市内最大の群落が見られます。

名古屋ではレッドデータブックに掲載されているアキノギンリョウソウや名古屋市内で激減したネブトクワガタも確認されています。都市化で乾燥化が進んでいる名古屋近郊でも、コナラ、アベマキなど典型的な雑木林と竹林が形成され、適度な湿度が保たれて、アキノギンリョウソウやネブトクワガタに必要な朽木や腐葉土が安定的に供給されている貴重な生息地です。ただ去年の秋は竹林や雑木林や下草をかなり刈っていくらか乾燥化したためかアキノギンリョウソウが見られなくなりました。また竹林や下草が伐採されたところを中心にアベマキなどの大木にカシノナガキクイムシの被害も多く出たように思います。

また緑地帯にはため池や田んぼがいくつかあり、メダカやハイロゲンゴロウなど貴重な水生動物の生息も確認されています。トンボの種類も豊富で、私が 10 月に調査した時には赤トンボの仲間（アカネ属）7 種とアオイトトンボが水路の植物茎に産卵する光景が多数確認されました。なお里山の調査は去年本格的に始めたばかりですから、今春以降里山が開発されていなければもっと様々な種が見つかると思います。



アオイトトンボ

その平針の里山が宅地開発の危機にさらされ、河村たかし市長は今年名古屋で「生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）」が開催されることもあり、何とかこの里山の買取りを目指してきました。しかし去年 12 月に市の鑑定額と業者側の希望額との差額 5 億円の壁が埋めきれず、業者の申請している 5ha の宅地開発を許可するという苦渋の決断をしました。その後今年 2 月 15 日、河村市長が開発許可を半年出さなかったために、開発業者が借入金の利息負担などの損害を被ったとして市に計 5 億円の損害賠償を求めて提訴しました。河村市長は業者の了承を得て最終期限まで引き延ばしたとして違法性はないと提訴については争う姿勢のようです。

去年 12 月に河村市長が開発を許可せざるをえなかった背景には、経済界や国などの協力が得られず市民運動も思ったほど広がらなかったことが指摘されています。市民運動が広がらなかったことに関しては、日ごろ里山保全に関わっている我々の努力が足りなかったのかと反省するところです。

われわれ自然観察指導員は、定期的に観察会を開くだけではなく、地元の自然が開発などの危機にさらされている時にその自然に目をむけ、モニタリング調査をしてデータをとったり、地元の人たちなどを対象にそこで観察会などを開催するなど、調査に関するデータを集め、多くの人にその状況を広く伝えることが大きな役割だと思っています。

里山は一度壊したら、二度とその生き物の賑わいや長年培った人と自然が共生してきた文化を取り戻すことはできません。極めて厳しい状況ですが、この素晴らしい里山を後世に残せるよう今後も活動していきたいと思っています。（平成 22 年 2 月 18 日現在）

平成 21 年度 第 3 回理事会

日時：平成 21 年 12 月 23 日(水・祝) 13:00～16:30

場所：刈谷市産業振興センター

出席：松尾、降幡、浅井、石田、大谷、近藤、齋竹、永田、布目、山田、滝田、樋口、小山、山下

議事

1 各支部から、総会の日程、来年度の行事予定の報告があった。

2 総会及び講演会の確認を行った。

日程：3 月 22 日午後 総会 講演会

場所：愛知県勤労会館（名古屋市昭和区 鶴舞公園内）

講演会講師を愛知学院大学の子安先生(小型ほ乳類、レッドデータ)に依頼した。

3 あいちの自然観察会の報告があった。（日時、場所、内容は p16 行事予定参照）

今年度は「なごや環境大学」の共有講座とする。

4 来年度のフォローアップ研修は「冬の自然観察」として実施する。

5 来年度は役員改選の年であるので、体制について検討した。

会計は長すぎる。

在籍の長い役員から順次変えていく必要あり。

役員数は理事 19+監事 2=21 名を維持する必要がある。（課題ができた時事務局から頼めるのは理事しかないため。）

名古屋 5 名、尾張 5 名、知多 4 名、西三河 3 名、東三河 1 名、奥三河 1 名の人数を維持する。（改選の時期なので各支部に理事の推薦を依頼し第 4 回理事会で理事会承認）

※各支部の事務局が理事会に参加すると、連絡の風通しが良くなり、会長の負担が少なくなる。一方支部の事務局が全県の様子を知り、情報が入るので一石四鳥以上の効果が期待できるため支部事務局の理事会出席を求めたい。

6 新入会員の紹介 協議会ニュース 3 月号に掲載することとし、往復はがきで原稿を依頼する。

7 次回の協議会ニュースの企画内容及び来年度の発行予定が提示された。

生物多様性条約 COP10 もあり、必要に応じて臨時増刊号を出す。（8 月～10 月頃）

8 2010 年 10 月 10・11 日に愛・地球博公園で開かれる COP10 記念行事の実行委員を募集する。

9 COP10 について情報交換を行った。

10 来年度の「協議会の日」は 11 月 23 日に実施する。（次回の理事会に案を持ち寄る。）

11 観察会の保険の対象期間は 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日であり、3 月の観察会が終了したら、参加人数合計×40 円を愛知県県指導員連絡協議会の会計の郵便振替口座へ振込むように、各観察会担当者に再度連絡をお願いする。

12 次回理事会で次年度予算案を提出する必要があることから、本年度事業計画と変更がある理事・支部は、1 月中旬までに会計に変更案を提出すること。

13 次回の理事会

日時：2 月 11 日（木・祝日）13:30～16:30

場所：なごやボランティア NPO センター

総会資料を用意する。

理事の推薦、研修会、「全国一斉自然かんさつ会」を決定する。

（山田理事の記録をもとに編集部で作成）

平成 21 年度 第 4 回理事会理事会記録

日時：平成 22 年 2 月 11 日(木・祝) 13:30～17:00

場所：なごやボランティア NPO センター

出席：松尾、降幡、浅井、石田、大谷、近藤、齋竹、永田、布目、山田、吉川、滝田、三田、梶野、小山

議事

- 1 支部総会で決まった事項について事務局から説明があった。
- 2 総会の日(3月22日)のタイムテーブル、役割分担等を決定した。
理事会 10:00～12:00 総会議案の確認、理事・監事の選任と役割分担・引継ぎ
総会 12:30 受付
13:00 開会 事業報告、決算・監査報告、事業計画と予算審議、役員承認
14:30 総会終了

14:50 講演 (講師：愛知学院大学講師 子安和宏氏)

16:20 茶話会 (講演の質疑応答を含め)
16:50 閉会
担当：司会(近藤)、議長(降幡)、書記(布目)、受付(齋竹、新理事)、
茶話会準備(近藤、石田)、懇親会(浅井、永田)
講師謝金：経理規定により 20000 円以内
- 3 主要な役員の候補を決定した。
会長(松尾)、副会長(大谷、降幡)、事務局長(浅井)、会計(石田)、
監事(榊原ほか1名)、保険担当理事(布目)
なお、会長、会計など長期にわたって務めている役員について、次回は交代できる
よう配慮することとした。
- 4 役員・理事の事務経費について確認した。
- 5 新年度の事業の「あいちの自然観察会」、「研修会」、「全国一斉かんさつ会」について
確認した。(配布資料中、空白の欄を埋めた。)
- 6 フォローアップ研修は COP10 が終わってからで「冬の観察」になる。具体的なテーマ
として、外来種の駆除法、朽木のいきものなどが出され、石田理事が県に接触する。
- 7 21 年度は調査に取り組まなかったが、来年度は何らかの調査に取り組むほうがよい。
- 8 COP10 事務局から COP10 自然観察会の経費として 7 万円強が出るので、その一部を事
業量に応じて支部に配分する。
- 9 新年度の観察会の保険について、21 年と同じ 4000 名を対象として契約する。
- 10 「あいちの自然観察会」は「なごや環境大学」の講座として取り組むことから、原
則として参加者から 350 円を徴収するが、事情があればこれと異なる対応もできる。
- 11 吉川理事から現在の会員名簿が配布され、支部名簿と照合するよう依頼された。
- 12 今年は COP10 もあるので、理事会は 1 回増やして 5 月頃にも開催したい。具体的な
日程は役員・理事が決まってから相談する。
- 13 10 月に愛・地球博公園で開かれる COP10 関連イベントに協議会としても取り組む。
- 14 協議会が作成に関わった「海上の森 冬の自然観察ガイドブック」について、会員
に配布する冊数が購入できるか県に確認する。
- 15 あいち自然ネットについて、協議会、尾張支部、知多支部が参加してきたが、海上
の森が活動の中心で、地域的に参加が難しいことから知多支部は退会した。協議会と
して継続するかどうか引き続き検討する。(記録：齋竹)

■会費納入のお願い

協議会の会計年度は2月1日から翌年の1月31日です。会員のみなさんには平成22年度分の協議会の会費2000円の支払いをお願いします。

すでに支部で会費を集めているところもあるかと思いますが、稀に誤って支部会費だけ納入する方もいますので、協議会費2000円と合わせて納入するよう注意してください。

支部の会計の方は、会費が集まりましたら、協議会の会費分を協議会の郵便振替口座（このページ下部に記載）に送金してください。また、支部に所属していない会員の方は、直接、協議会の郵便振替口座に振り込んでください。

なお、7月末までに会費の支払いがない場合は、協議会ニュースの送付が停止されますので、ご注意ください。

■観察会の保険料について

協議会を通して参加者に保険をかけている観察会の担当者の方のみなさんにはお願いです。平成21年度の保険の期間は平成21年4月1日から平成22年3月31日までで、この期間終了後に保険会社と精算をする必要があります。担当者のみなさんには観察会開催翌月の10日までに保険対象の参加者数を保険担当理事あて報告していただいています。3月の最終観察会終了後に上記期間の人数を確定し、保険料（@40円×参加者数）を取りまとめのうえ、協議会の郵便振替口座にお振り込みください。昨年度まで会計がまとめて振込みをしていた支部は対応が変わりますので、ご注意ください。

なお、振込手数料は協議会で負担しますので、手数料分を引いて送金してください。（振込金額＝保険料合計－手数料）

■事務局体制の強化について

今年度は名古屋で生物多様性条約の締約国会議(COP10)が開催され、協議会としても関連事業への参加など忙しくなるものと考えられます。

新理事の役割分担の中でCOP10事業担当理事の設置など事務局体制の強化を予定していますが、会員のみなさんにもご協力をお願いしたいと思います。何らかの協力をいただける方は事務局までお知らせください。

また、いろいろと支部にお願いすることが出てきますので、支部事務局との会議などで連携を密にしていきたいと思えます。ご協力ください。

■会員の状況（H22/2/22 現在）

支部名	参加者 (A)	他支部 所属(B)	所属会員 (A-B)
名古屋	98	1	97(4)
尾 張	78	3	75(0)
知 多	66	1	65(1)
西三河	56	3	53(1)
東三河	62	2	60(2)
奥三河	21	11	10(0)
未所属	5	-	5(0)
合計			365(8)

備考：「所属会員」の欄はその支部で協議会費を支払っている会員の数を示します。なお、（ ）は内数で家族会員の数です。

※住所や電話番号が変わった会員の方は事務局までお知らせください。

協議会の郵便振替口座

口座番号：00820-9-6546

名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会

<<<< 行 事 案 内 >>>>

■平成 22 年度総会 & 講演会

日時：3 月 22 日（月・振替休日）13:00～

場所：愛知県勤労会館

詳細は本誌 p2 をご覧ください。

■理事会

日時：3 月 22 日（月・振替休日）10:00～12:00 場所：愛知県勤労会館

■あいちの自然観察会（総会前ですが日程の都合で掲載します。）

日 時	場 所	テ ー マ	支 部 担 当
4/25(日) 9:30-12:00	矢作川 (矢作橋周辺)	矢作川の自然にふれてみよう	西三河 三田
5/9(日) 9:30-12:00	庄内川 (庄内橋周辺)	庄内川の生き物を調べてみよう	名古屋 石原
5/30(日) 10:00-12:00	木曽川 (138 ㌢-ﾊﾟｰｸ)	木曽三川公園で自然発見をしよう	尾張 齋竹
6/27(日) 10:30-15:00	豊川 (寒狭川鮎滝周辺)	寒狭川で自然体験をしよう	奥三河 小山
7/11(日) 9:30-12:00	伊勢湾 (奥田海岸)	干潟の生き物を探そう	知多 森田
8/22(日) 9:30-12:00	三河湾 (蒲郡竹島)	竹島で磯の生き物を調べてみよう	東三河 間瀬

■支部研修会（5 月分まで）

東三河 3/27(土) 枯れ山（浜松市）

奥三河 5/15(土) 茶臼山 あてびの森周辺

名古屋 5/29(土) 石徹白（郡上市）

詳細については各支部にお問い合わせください。

編 集 部 か ら

●今回から表紙のイラストは西三河支部の岡田慶範さんが担当されます。ご期待ください。

編集スタッフ

岡田 雅子 近藤 記巳子

齋竹 善行 酒井 勇治

永田 孝 山口 健

発送スタッフ

岩沙 雅代 横井 邦子



■愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局（当面）

〒486-0904 春日井市宮町3-6-2

松尾 初

Tel 0568-32-5069

■Web Page：http://naichi.net/

■郵便振替口座：00820-9-6546（名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会）